

20世紀に採集された熊本県産オヒキコウモリ標本について

安田雅俊^{1,2}, 安田晶子³, 川田伸一郎⁴¹熊本野生生物研究会, ²森林総合研究所九州支所, ³熊本県博物館ネットワークセンター⁴国立科学博物館Notes on the specimens of *Tadarida insignis* (Chiroptera) collected from Kumamoto Prefecture in the 20th centuryMasatoshi Yasuda^{1,2}, Akiko Yasuda³, Shin-ichiro Kawada⁴¹Kumamoto Wildlife Society, ²Kyushu Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute,³Kumamoto Prefecture Museum Network Center, ⁴National Museum of Nature and Scienceキーワード: *Tadarida insignis*, 翼手目, 博物館標本, 採集記録, 熊本県

摘要

熊本県内において20世紀に採集されたオヒキコウモリの標本について調査したところ、3標本が見出された。採集日の古い順に採集年と採集地等を示すと、1964年熊本市♀（熊本県博物館ネットワークセンター所蔵）、1964年熊本市♀（国立科学博物館所蔵）、1981年南阿蘇村♂（国立科学博物館所蔵）であった。それぞれの標本について詳細を整理し、採集者についても記述した。

A survey revealed that three specimens of the East Asian free-tailed bat *Tadarida insignis* were collected in Kumamoto Prefecture in the 20th century. They were a female collected in Kumamoto City in 1964, a female collected in Kumamoto City in 1964, and a male collected in Minami-aso Village in 1981. The details of these specimens, including the collector, are summarised.

はじめに

本稿では熊本県内において20世紀に採集されたオヒキコウモリ *Tadarida insignis*（翼手目オヒキコウモリ科）の標本について調査した結果を報告する。オヒキコウモリは我国の昆虫食コウモリ類のうちでは大型の種で、体サイズの平均値は頭胴長 89.5mm, 尾長 53.7mm, 前腕長 62.6mm である (Sano 2015a)。現在、日本では23道府県において生息が確認されており（コウモリの会 2023）、九州では長崎県を除く6県において生息が確認

されている [福岡県: 田中 (1944a, 1944b), 阿部 (1944), 船越ほか (1987), 大沢ほか (2020); 佐賀県: 大宅ほか (2013), 原本ほか (2017), 宮崎 (2020); 大沢ほか (2020); 熊本県: 吉倉 (1969), 吉倉 (1984), 船越・前田 (2020), 船越ほか (2020), 坂田ほか (2022), 坂田ほか (2024); 大分県: 宮崎 (2020), 安田 (2021), 前田・安田 (2024); 宮崎県: 船越ほか (1999); 鹿児島県: 船越ほか (2016)]。九州各県のレッドリストでは熊本県と宮崎県で絶滅危惧 IB 類, 鹿児島県 (本土) で絶滅危惧 I 類, 福岡県と大分県で情報不足に選定されている。なお, 南西諸島には近縁種のスミイロオヒキコウモリ *Tadarida latouchei* が分布する (Sano 2015b)。

コウモリ通信編集部 (1999) は日本における本種の捕獲記録を整理し, 1944年の初記録から1997年までに1道10県から20点 (11♀♀, 7♂♂, 性不明2) の標本が得られていることを報告した。熊本県からは3点の標本が知られていた。

吉倉 (1984) は熊本県内で採集されたオヒキコウモリ標本3点について採集年月日 (以下, 採集日と略) と性を1964年2月24日♀, 同年4月6日♀, 1981年6月27日♂としている (以下, それぞれ1964A, 1964B, 1981A と呼ぶ)。これらのうち1964A標本は長く所在不明であった (コウモリ通信編集部 1999)。また, その外部計測値は知られていなかった。次に国立科学博物館に所蔵されている熊本県産の標本2点 (NSMT-M9588, NSMT-M25370; Yoshiyuki 1989) を確認したところ, 採集日と性はそれぞれ1964年4月6日♀, 1981年5月

28日♂であった。前者は1964B標本と採集日および性が一致した。後者は吉倉(1984)の1981Aと性は一致したものの採集日は一致しなかったため、以下では1981Bと呼ぶこととする。

本報告では、所在不明となっていた1964A標本の現在の所在と外部計測値を明らかにするとともに、1981Aと1981Bが同一個体である可能性を検討する。

方法

熊本県博物館ネットワークセンター(熊本県松橋市)と国立科学博物館(茨城県つくば市)に所蔵されている熊本県産のオヒキコウモリ標本を確認し、標本のラベル、台帳の記載内容等を記録した。計測値の記載がない標本では、頭胴長と尾長を金属製の物差しを用いて、前腕長をノギスで計測した。国立科学博物館所蔵の標本についてはインターネット上で公開されている標本・資料統合データベースでも確認した。文献資料は国立国会図書館デジタルコレクションで探索した。熊本日日新聞の過去の記事は熊本県立図書館において閲覧した。九州東海大学(当時)で1981年に採集されたオヒキコウモリについては、2023年7月10日、採集者である長野克也博士から当時の状況について聞き取りを行った。

結果と考察

熊本県産の3標本の詳細を以下に記す。一部の記載内容に齟齬が認められた。採集地については2次メッシュコードあるいは3次メッシュコードを付した。

(1) 1964A (♀) (図1)

標本の所在：熊本県博物館ネットワークセンター

標本登録番号：NB11-000231

標本種別：液浸

採集日：1964年2月24日(標本ラベル)；1964年2月24日午後(吉倉1969)

採集地：熊本市(標本ラベル)；熊本市立藤園中学校校門付近の地上(吉倉1969)；現在の熊本市中央区(3次メッシュコード：4930-1576)

採集者：記載なし(標本ラベル)；藤園中学校生徒(吉倉1969)

計測値：記載なし(標本ラベル)；頭胴長85.0mm，尾長50.0mm，前腕長64.5mm(2023年7月12日，液浸標本を測定)

文献：吉倉(1969)，吉倉(1982)，吉倉(1984)，コウモリ通信編集部(1999)

備考：標本ラベルには「熊本大学理学部生物学教室」とある。熊本大学から熊本県博物館ネットワークセン



図1 熊本産オヒキコウモリ1964A標本(熊本県博物館ネットワークセンター所蔵, NB11-000231)。



図2 熊本産オヒキコウモリ 1964B 標本 (国立科学博物館所蔵, NSMT-M9588).

ターへの標本の移管時期は不明。

(2) 1964B (♀) (図2)

標本の所在：国立科学博物館

標本登録番号：NSMT-M9588

標本種別：仮剥製

採集日：1964年4月6日 (標本ラベル；今泉・吉行 1965)

採集地：熊本市熊本城石堀 (標本ラベル；図2)；現在の熊本市中央区 (2次メッシュコード：4930-15)

採集者：丹下 仁 (東京医科歯科大学) (標本ラベル；図2)

計測値：頭胴長 89mm, 尾長 53mm, 前腕長 62mm (今泉・吉行 1965)

文献：今泉・吉行 (1965), 吉倉 (1969), 吉倉 (1982), 吉倉 (1984), 浜口・一寸木 (1985), Yoshiyuki (1989), コウモリ通信編集部 (1999)

備考：採集日の記載に齟齬が認められた。吉倉 (1969) は 1964年6月6日 11時頃としていたが、後には吉倉 (1982), 吉倉 (1984) において同年4月6日としている。また国立科学博物館標本・資料統合データベースにおける NSMT-M9588 の採集日は 1964年8月6日であり、標本ラベルからの転記ミスと考えられる。

(3) 1981A (♂) (写真あり；無署名 1981a；1982)

標本の所在：国立科学博物館 (長野克也 私信)

標本登録番号：不明

標本種別：不明

採集日：1981年5月 (無署名 1982)；1981年6月27日 16時頃 (無署名 1981a)；1981年6月27日 (吉倉 1982, 1984)；1981年7月5日 (浜口・一寸木 1985)

採集地：長陽村河陽, 九州東海大学農学部解剖実験棟 (無署名 1981a)；九州東海大学阿蘇校舎畜産学科家畜解剖室 (無署名 1982)；現在の南阿蘇村 (3次メッシュコード：4930-2779)

採集者：長野克也 (九州東海大学農学部) (無署名 1981a, 1981b, 1982)

計測値：頭胴長 85mm, 尾長 51mm, 前腕長 59.8mm (無署名 1981a, 1981b；浜口・一寸木 1985)

文献：無署名 (1981a), 無署名 (1981b), 無署名 (1982), 吉倉 (1982), 吉倉 (1984), 浜口・一寸木 (1985), コウモリ通信編集部 (1999)

備考：採集日の記載に齟齬が認められた。すなわち、文献資料における採集日は 1981年5月, 同年6月27日, 同年7月5日と異なっていた。これらのうち6月27日については熊本日日新聞の記事 (無署名 1981a) に記された採集日, 7月5日については同記事の掲載日であった。

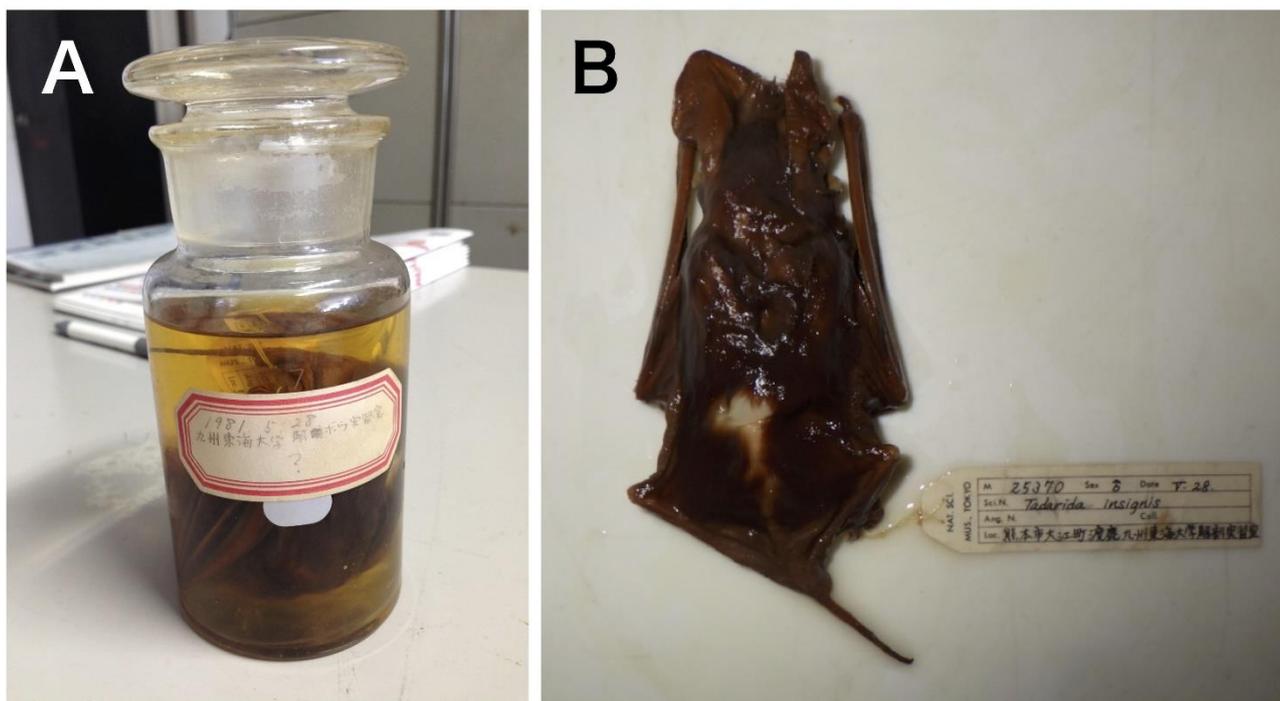


図3 熊本産オヒキコウモリ 1981B 標本 (国立科学博物館所蔵, NSMT-M25370). A: 液浸の瓶, B: 標本と標本ラベル.

(4) 1981B (♂) (図3)

標本の所在: 国立科学博物館

標本登録番号: NSMT-M25370

標本種別: 頭骨, 液浸

採集日: 年不詳 5月28日 (標本ラベル); 1981年5月28日 (標本瓶ラベル, Yoshiyuki 1989)

採集地: 熊本市大江町渡鹿九州東海大学解剖実習室 (標本ラベル, 標本台帳); 九州東海大学解■ボウ実習室 (標本瓶ラベル); Toka, Ôe-honmachi, Kumamoto City (Yoshiyuki 1989)

採集者: 記載なし (標本ラベル)

計測値: 頭胴長 88.0mm, 尾長 48.0mm, 前腕長 60.35mm (標本ラベル, Yoshiyuki 1989)

文献: Yoshiyuki (1989), コウモリ通信編集部 (1999)

備考: 採集地の記載の一部に齟齬が認められた。Yoshiyuki (1989)の採集地の Toka は渡鹿^{とろく}の誤読とみられる。この場合, 採集地は現在の東海大学熊本キャンパス (熊本市東区渡鹿; 2次メッシュコード: 4930-15) となるが, 筆者は異なる見解を以下に提出する。

1981A と 1981B の同一性の検討

コウモリ通信編集部 (1999) が作成したオヒキコウモリ標本のリストでは 1981A は 1981B と同一とみなされており, 筆者も同意見である。その根拠を以下に述べる。

第一に, どちらも九州東海大学 (2008年に東海大学

に組織改編)の動物解剖を行う建物で採集されたという点で一致している。1981年当時は, 農学部があった阿蘇キャンパス (現在の南阿蘇村) と工学部があった熊本キャンパス (現在の熊本市東区渡鹿) に分かれており, 阿蘇キャンパスには畜産学科の家畜解剖室があった (無署名 1982)。次に計測値に着目すると, 両標本の間には頭胴長で 3mm, 尾長で 3mm の違いがあったが, 全長はどちらも 136mm であった。尾長は計測方法の違いにより誤差が出ることがある (日本哺乳類学会種名・標本委員会 2009)。また前腕長は前者 59.8mm, 後者 60.35mm と近い値であった。第三に, 1981A について記した無署名 (1981a) は国立科学博物館職員が熊本を訪れて研究のために標本を持ち帰ったとしている。採集者の長野克也博士も 1981A は国立科学博物館に収蔵されたと証言した。以上のことから, 1981A は, 1981B つまり国立科学博物館所蔵標本 (NSMT-M25370) と同一である可能性が極めて高いと結論できる。そこで以下では表記を 1981年標本と改めて論を進める。

1981年標本についての我々の調査結果は以下の通りである。採集者は長野克也博士であった。採集地についてみると, NSMT-M25370 の標本ラベルや標本台帳, Yoshiyuki (1989) に記された採集地は誤りで, 正しくは旧長陽村河陽の旧九州東海大学阿蘇キャンパス, すなわち現在の南阿蘇村 (3次メッシュコード: 4930-2779) であった。残る問題は採集日の記載に齟齬がある点である。東海大学が出版する雑誌『望星』に掲載された記事 (無

署名 1982) は 1981 年標本の採集日を 1981 年 5 月としており、標本ラベルと整合性がある。一方、採集日を 1981 年 6 月 27 日とする吉倉 (1982, 1984) は熊本日日新聞の記事 (無署名 1981a) に依拠したものと考えられる。採集者に確認したものの、正しい採集日について結論を得ることはできなかった。

本研究により、20 世紀に採集された熊本県産オヒキコウモリ 3 標本の所在がすべて明らかとなった。熊本県内における本種の生息確認事例は 21 世紀に大きく増加した。すなわち、2010 年代以降、熊本城周辺で飛翔する姿や音声が確認されたり (坂田 2015; 安田 2015; 坂田ほか 2024)、九州新幹線高架や天草諸島を含む県内各地で生息が確認されたりした (船越・前田 2020; 船越ほか 2020; 坂田ほか 2022)。今後、捕獲調査が行われて新たな標本が得られた際には、本稿で示した 3 標本を含めた検討が進むと期待される。

最後に、阿部 (1944) が報告し、コウモリ通信編集部 (1999) で所在不明とされていた 1944 年 5 月に福岡県沖ノ島付近で採集されたオヒキコウモリの標本は、本研究の過程で萩博物館 (山口県萩市) に移管された可能性が判明したものの、遺失していることが確認されたので付記しておく。この標本については萩図書館貴重資料アーカイブズで公開されている田中市郎の 2 編の報告 (田中 1944a, 1944b) を併せて参照されたい。

謝辞

本稿の執筆にあたり、佐野 明博士、長野克也博士および森田祐介氏、萩博物館の川原康寛氏から有益な情報やコメントを得た。ここに記して感謝する。本研究の一部は国立研究開発法人森林研究・整備機構の経常研究として行われた。

引用文献

- 阿部余四男. 1944. 沖ノ島附近のオホミミカウモリ属. 動物学雑誌 56: 59.
- 船越公威・前田史和. 2020. 天草市大江沖合の岩礁「大ヶ瀬」に生息するオヒキコウモリ *Tadarida insignis* の初記録と市大江向の「伏魔洞」に生息するコウモリ類の若干の知見. 熊本野生生物研究会誌 (10): 13-17.
- 船越公威・前田史和・佐藤美穂子・小野宏治. 1999. 宮崎県枇榔島に生息するオヒキコウモリ *Tadarida insignis* のねぐら場所、個体群構成および活動について.

- 哺乳類科学 39: 23-33.
- 船越公威・松沢一寛・西田敏郎・三浦英治. 1987. 福岡市街で発見されたオヒキコウモリ-特に形態と飼育下における体重変動について. 生物福岡 (27): 25-28.
- 船越公威・大澤達也・永山 翼・佐藤顕義・勝田節子・大沢夕志・大沢啓子. 2020. 九州新幹線高架橋で発見されたコウモリ類の生態、特にオヒキコウモリ *Tadarida insignis* の人工ねぐらの利用と食性について. 哺乳類科学 60: 15-30.
- 船越公威・佐藤顕義・大沢夕志・大沢啓子・佐伯綾香. 2016. 鹿児島県の新幹線高架橋で発見されたオヒキコウモリ *Tadarida insignis* の生息状況. Nature of Kagoshima 42: 5-11.
- 原本すみれ・安田雅俊・徳田 誠. 2017. 佐賀市内におけるオヒキコウモリの活動時期 (2016 年熊本地震の前震直後の観察を含む). 佐賀自然史研究 (22): 13-17.
- 浜口哲一・一寸木肇. 1985. 南足柄市で発見されたオヒキコウモリについて. 神奈川自然誌資料 6: 37-40.
- 今泉古典・吉行瑞子. 1965. 日本産オヒキコウモリ of 分類学的考察. 哺乳動物学雑誌 2: 105-108.
- コウモリの会 (編). 2023. 識別図鑑 日本のコウモリ. 文一総合出版, 東京, 240pp.
- コウモリ通信編集部. 1999. オヒキコウモリ捕獲記録. コウモリ通信(11): 4-5.
- 前田史和・安田雅俊. 2024. 大分県大分市高島におけるオヒキコウモリ *Tadarida insignis* の音声記録. 熊本野生生物研究会誌 (12): 31-36.
- 宮崎八州雄. 2020. 佐賀県内におけるオヒキコウモリ (翼手目オヒキコウモリ科) の 2012~2017 年の観察記録. 長崎県生物学会誌 (87): 19-20.
- 無署名. 1981a. 熊本に珍獣オヒキコウモリ 九州東海大構内で捕まる. 熊本日日新聞 1981 年 7 月 5 日 18 面.
- 無署名. 1981b. 熊本でオヒキコウモリ捕まる. 動物と自然 11(11): 45.
- 無署名. 1982. 阿蘇校舎に珍獣が飛来. 望星 13(4): 130-131.
- 日本哺乳類学会種名・標本委員会. 2009. 哺乳類標本の取り扱いに関するガイドライン (2009 年度改訂版). 哺乳類科学 49: 303-319.
- 大宅利之・副島和則・坂本兼吾. 2013. 佐賀県で初めて記録されたオヒキコウモリ (オヒキコウモリ科). 佐賀自然史研究 (18): 33-34.
- 大沢啓子・大沢夕志・大宅利之・副島和則. 2020. 佐賀県, 福岡県の九州新幹線高架をねぐらとして利用す

- るコウモリの報告-オヒキコウモリの記録を中心として. 佐賀自然史研究(24): 1-5.
- 坂田拓司. 2015. 天守閣に謎のコウモリあらわる. くまもとの哺乳類(熊本野生生物研究会, 編), pp. 176-177. 東海大学出版会, 秦野.
- 坂田拓司・坂本真理子・前田史和・天野守哉. 2022. 熊本県におけるコウモリ類に関する生息調査報告(Ⅲ). 熊本野生生物研究会誌(11): 26-39.
- 坂田拓司・安田雅俊・坂本真理子・天野守哉・田上弘隆. 2024. 熊本城天守閣周辺を飛翔するオヒキコウモリ *Tadarida insignis* の活動状況. 熊本野生生物研究会誌(12): 15-26.
- Sano, A. 2015a. *Tadarida insignis* (Blyth, 1861). In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh, eds.) The Wild Mammals of Japan, Second edition, pp. 130-131. Shoukado Book Sellers and the Mammalogical Society of Japan.
- Sano, A. 2015b. *Tadarida latouchei* Thomas, 1920. In (S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh, eds.) The Wild Mammals of Japan, Second edition, pp. 132. Shoukado Book Sellers and the Mammalogical Society of Japan.
- 田中市郎. 1944a. 稀有の蝙蝠を生捕りて. 萩文化 8(5): 2.
- 田中市郎. 1944b. 内地で最初の北大耳蝙蝠. 萩文化 8(6): 2.
- 安田樹生. 2015. コウモリのなく頃に. くまもとの哺乳類(熊本野生生物研究会, 編), pp. 178-179. 東海大学出版会, 秦野.
- 安田雅俊. 2021. 玖珠町における種不明のコウモリの音声の確認. 大分自然博物誌-ブンゴエンシス 4: 58-59.
- 吉倉 眞. 1969. 注目すべき県産の小獣. 自然と文化を愛する会会報 1969: 10-12.
- 吉倉 眞. 1982. 熊本の野生動物. 放送による熊本大学公開講座 熊本の自然(熊本大学学生部, 編). pp. 151-164. 熊本大学学生部, 熊本.
- 吉倉 眞. 1984. 熊本の陸生哺乳動物(1) 研究史と陸生哺乳動物目録. 土龍(11): 27-55.
- Yoshiyuki, M. 1989. A Systematic Study of the Japanese Chiroptera. National Science Museum, Tokyo, Tokyo, 242pp.

受付日: 2023年7月26日

受理日: 2024年5月13日

連絡先: 安田雅俊 (国研) 森林研究・整備機構森林総合研究所九州支所

〒860-0862 熊本県熊本市中央区黒髪 4-11-16 ✉ myasuda@ffpri.affrc.go.jp